

Gerbode defect resulting from Group B Streptococcus infective endocarditis: a case report

Surgical Case Reports (2024) 10:151

<https://doi.org/10.1186/s40792-024-01943-5>

組織破壊性の強い Group B Streptococcus を原因菌とする大動脈弁位感染性心内膜炎によって、Gerbode defect (左室と右房が交通した状態) が生じた症例の手術治療例の報告です。Gerbode defect は生命を脅かす恐れがあり早期手術が望ましく、そのためには正確な早期診断が必要です。本症例では経食道心エコーにて弁輪から完全に外れた大動脈弁右冠尖とその直下に異常な空洞を認めました。経食道心エコーを仔細に行うことでその空洞と右房の交通を認め、早期診断に至りました。手術は大動脈弁置換術に加え、左室流出路の修復、defect の右房側からの閉鎖を行い、良好な結果が得られました。